

# 2025年3月期 第3四半期 決算補足資料

- |                      |       |
|----------------------|-------|
| 1. 決算概観（連結）          | P.2   |
| 2. 第3四半期 業績（連結）のポイント | P.3   |
| 3. 第3四半期 業績（連結）の状況   | P.4   |
| 4. 第3四半期 業績と予想（連結）   | P.5   |
| 5. 主要製品の状況           | P.6   |
| 6. 開発品一覧             | P.7～9 |

2025年2月5日  
杏林製薬株式会社



## ■ 将来の見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

# 2025年3月期 第3四半期 決算概観（連結）



(単位：百万円)	22年3月期 第3四半期	23年3月期 第3四半期	24年3月期 第3四半期	25年3月期 第3四半期	対前年 (%)	25年3月期 (予想)	対前期 (%)
売上高	77,717	80,707	87,267	89,286	+2.3	123,400	+3.2
営業利益	2,926	4,702	4,803	3,115	-35.1	6,500	+4.3
経常利益	3,515	5,336	5,391	3,753	-30.4	6,900	+1.1
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	2,483	4,377	4,149	2,439	-41.2	5,000	-8.7

## 25年3月期 第3四半期 連結業績（実績）

**【売上高】** 薬価改定の影響はあったものの、積極的な新薬の普及に努め、主力製品である「ベオーバ」、「ラスビック」等が伸長したことにより、新医薬品等（国内）の売り上げは前年同期を上回る実績となりました。他方、後発医薬品の売り上げは減少しましたが、全体の売上高は892億86百万円と前年同期比20億18百万円の増収となりました。

**【利益】** 売上は増加したものの、原価率の上昇により売上総利益は386億71百万円と前年同期に対して19百万円増と横ばいで推移しました。他方、販売費及び一般管理費は導入品獲得に伴う研究開発費の増加により17億7百万円増加（うち、研究開発費は23億45百万円増加）し、その結果、営業利益は31億15百万円（前年同期比16億87百万円減）となりました。経常利益は37億53百万円（16億37百万円減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は24億39百万円（17億9百万円減）となりました。

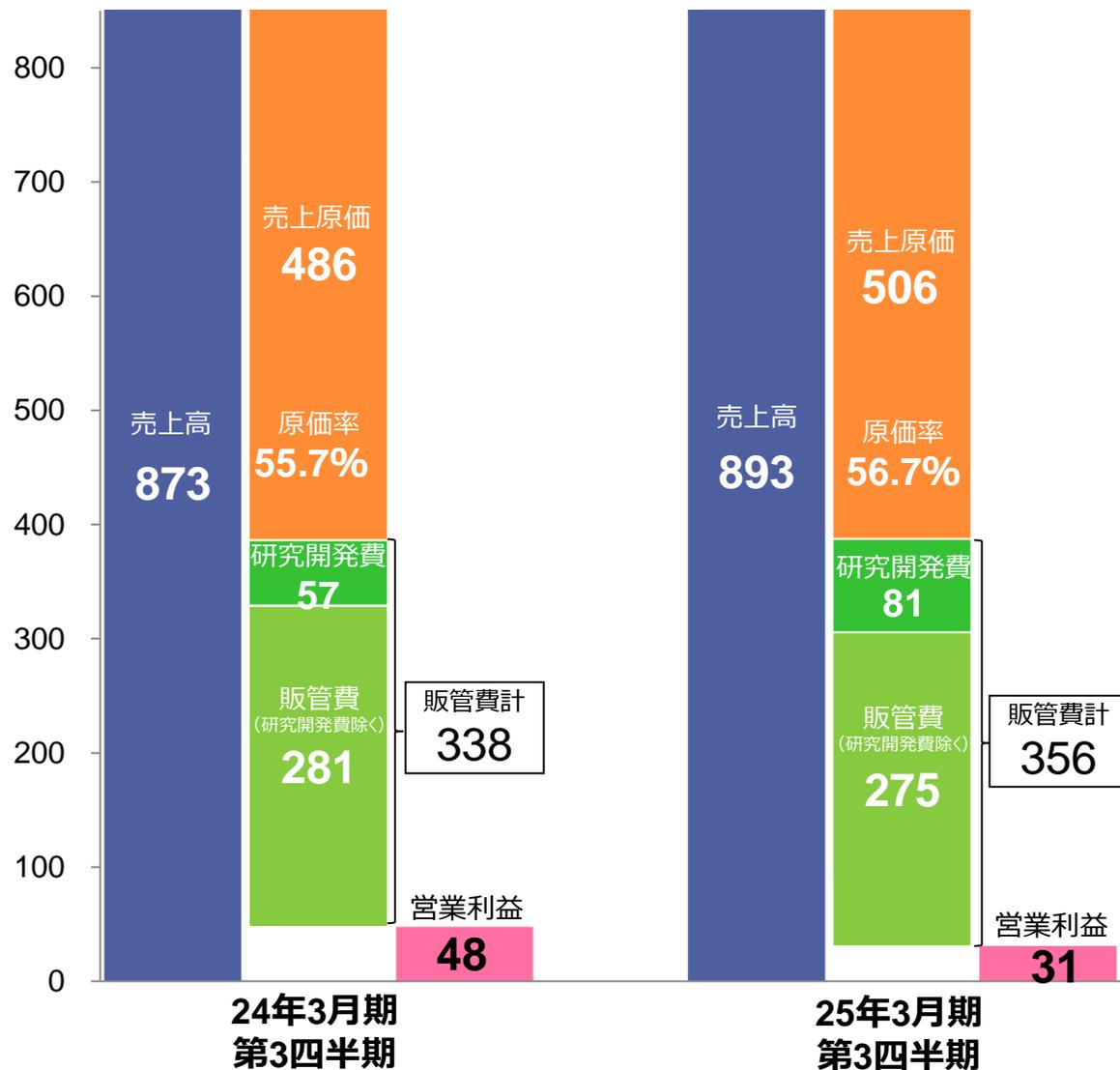
## 25年3月期 連結業績（予想）

通期の連結業績予想につきましては、当社を取り巻く経営環境や市場動向に不透明かつ流動的な要因が多いことから、現時点では業績が十分に見通せる状況ではないと判断し、2024年5月10日に公表した業績予想を変更しておりません。今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに公表いたします。

また2024年5月10日に公表した配当予想（年間52円/株）の変更はございません。

# 2025年3月期 第3四半期 業績（連結）のポイント

(単位：億円)



## 売上高は増加 (+20億円)

- 新医薬品等（国内）の売上増加  
・新薬（ベオーバ、ラスビック等）の伸長
- 後発医薬品は売上減少

## 売上原価率は 1.0ポイント上昇

【低下要因】

- 新薬（ベオーバ、ラスビック等）の売上増加  
新薬比率の上昇

【上昇要因】

- 薬価改定の影響（杏林製薬7%台）
- 為替変動の影響

## 売上総利益は横ばい (0億円)

## 販管費は 18億円増加

- 研究開発費は24億円増加  
導入に関わる契約一時金の計上
- 販管費（研究開発費除く）は6億円減少  
・販売費、人件費、減価償却費の減少  
・一般経費の増加（特許等使用料等）

## 営業利益は減少 (-17億円)

※ 2025年3月期第1四半期より会計方針の変更を行っており、2024年3月期第3四半期に係る数値については遡及修正後の数値を記載しております。

# 2025年3月期 第3四半期 業績（連結）の状況



(単位：億円)	24年3月期 第3四半期	25年3月期 第3四半期	対前年 (額)
売上高	873	893	+20
新医薬品等(国内)	606	629	+23
新医薬品(海外)	3	5	+2
後発医薬品	264	259	-5
営業利益	48	31	-17
経常利益	54	38	-16
親会社株主に帰属する 四半期純利益	41	24	-17

■売上高	893億円	(対前年) <b>(+20)</b>	
●新医薬品等(国内)	629億円	<b>(+23)</b>	
	24.3 (3Q)	25.3 (3Q)	
・ベオーバ	134	⇒ 167	(+33)
・ラスビック	37	⇒ 58	(+21)
・リフヌア	7	⇒ 7	(+0)
・デザレックス	52	⇒ 56	(+4)
・フルティフォーム	99	⇒ 106	(+7)
・ペンタサ	95	⇒ 94	(-1)
・キプレス	48	⇒ 26	(-22)
・ムコダイン	32	⇒ 26	(-6)
・ウリトス	4	⇒ 3	(-1)
●新医薬品(海外)	5億円	<b>(+2)</b>	
	ガチフロキサシンに関わる一時的な収入		
●後発医薬品	259億円	<b>(-5)</b>	
	オーソライズド・ジェネリック等の売上減少 24年度追補収載品、承継品等の売上寄与		
■営業利益	31億円	<b>(-17)</b>	
●原価率：56.7% (前年同期：55.7%)	【低下要因】新薬（ベオーバ、ラスビック等）の売上増加 新薬比率の上昇 【上昇要因】薬価改定の影響、為替変動の影響		
●研究開発費：81億円 (前年同期：57億円)	導入に関わる契約一時金の計上		
●販管費（研究開発費除く）：275億円 (前年同期：281億円)	販売費、人件費、減価償却費の減少、 一般経費（特許等使用料等）の増加		
■親会社株主に帰属する 四半期純利益	24億円	<b>(-17)</b>	

※ 2025年3月期第1四半期より会計方針の変更を行っており、2024年3月期第3四半期に係る数値については遡及修正後の数値を記載しております。

# 2025年3月期 第3四半期 業績と予想（連結）



(単位：百万円)	第2四半期		第3四半期				通期		
	24年3月期 (実績)	25年3月期 (実績)	24年3月期 (実績)	25年3月期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	24年3月期 (実績)	25年3月期 (予想)	進捗率 (%)
売上高	54,937	55,139	87,267	<b>89,286</b>	+2,018	+2.3	<b>119,532</b>	<b>123,400</b>	72.4
新医薬品等（国内）	37,875	39,029	60,587	<b>62,892</b>	+2,304	+3.8	<b>82,581</b>	<b>84,700</b>	74.3
新医薬品（海外）	167	424	291	<b>517</b>	+226	+77.7	<b>386</b>	<b>400</b>	129.3
後発医薬品	16,895	15,686	26,388	<b>25,876</b>	-512	-1.9	<b>36,564</b>	<b>38,200</b>	67.7
営業利益	1,335	1,549	4,803	<b>3,115</b>	-1,687	-35.1	<b>6,234</b>	<b>6,500</b>	47.9
経常利益	1,578	2,050	5,391	<b>3,753</b>	-1,637	-30.4	<b>6,822</b>	<b>6,900</b>	54.4
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	1,890	1,255	4,149	<b>2,439</b>	-1,709	-41.2	<b>5,475</b>	<b>5,000</b>	48.8

※ 2025年3月期第1四半期より会計方針の変更を行っており、2024年3月期に係る数値については遡及修正後の数値を記載しております。

# 2025年3月期 第3四半期 主要製品の状況



	(単位：億円)	第2四半期		第3四半期				通期		
		24年3月期 (実績)	25年3月期 (実績)	24年3月期 (実績)	25年3月期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	24年3月期 (実績)	25年3月期 (予想)	進捗率 (%)
新医薬品等 (国内)	<b>ベオーバ (自社販売分)</b> (過活動膀胱治療剤)	83	104	134	167	+33	+25.3	181	220	76.0
	<b>ラスビック</b> (ニューキノロン系抗菌剤)	25	30	37	58	+21	+54.7	49	64	89.9
	<b>リフヌア</b> (選択的P2X3受容体拮抗薬/咳嗽治療薬)	4	4	7	7	+0	+6.2	8	15	46.2
	<b>デザレックス</b> (アレルギー性疾患治療薬)	31	34	52	56	+4	+7.5	89	96	58.4
	<b>フルティフォーム</b> (喘息治療配合剤)	62	64	99	106	+7	+7.0	129	125	84.4
	<b>ペンタサ</b> (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	61	62	95	94	-1	-0.8	123	116	80.9
	<b>キプレス</b> (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	26	18	48	26	-22	-46.9	70	53	48.3
	<b>ムコダイン</b> (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	20	15	32	26	-6	-21.3	42	43	58.9
	<b>ウリトス (自社販売分)</b> (過活動膀胱治療剤)	3	2	4	3	-1	-36.7	5	3	77.1
	<b>ミルトン</b> (哺乳びん・乳首消毒剤)	10	9	15	14	-1	-3.8	19	19	75.3
	<b>ルビスタ</b> (環境除菌・洗浄剤)	8	6	12	9	-3	-26.6	15	15	57.2
後発 医薬品	<b>モンテルカスト錠「KM」</b> (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	58	50	92	83	-9	-10.3	123	118	70.1
	<b>モメタゾン点鼻液「杏林」</b> (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	9	7	19	17	-2	-9.0	45	43	39.1
	<b>イミダフェナシン錠「杏林」</b> (過活動膀胱治療剤)	3	3	5	4	-1	-8.6	6	5	81.0

# 開発品一覧① (2025年2月5日現在)

## Ph3 ~ 発売

開発段階		製品名/ 開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph3 自社 (22年9月)	Ph3 エイタイヤ社 (アメリカ)	<b>KRP-R120</b>	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	エイタイヤ社	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体 (NRP2) に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される	

## POCプロジェクト (Ph1 ~ Ph2)

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph1 自社 (22年8月)	—	<b>KRP-114VP</b>	過活動膀胱	メルク社	膀胱平滑筋に存在するβ3アドレナリン受容体を選択的に刺激し、膀胱を弛緩させることで蓄尿機能を亢進し、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善する	「ベオーバ」の小児への適応拡大
—	Ph1 自社 (21年4月：イギリス)	<b>KRP-A218</b>	重症化リスクを有する ライノウイルス感染症	自社	宿主分子を標的とし、体内におけるウイルス増殖を抑制する抗ウイルス薬	

# 開発品一覧② (2025年2月5日現在)

## 導入品の状況

※前回 (2024年11月7日) からの更新

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph2 あすか製薬(株) (19年12月)	—	<b>AKP-009</b>	前立腺肥大症	あすか製薬(株)	新規アンドロゲン受容体モジュレーター作用を有し、前立腺縮小作用に加えて排尿機能改善作用を併せ持つ、新しい前立腺肥大症治療薬として期待される	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国内における共同開発及び販売等に関する契約を締結 (20年9月)</li> <li>高用量の追加Ph1試験終了(あすか製薬)</li> <li>再度実施したPh1試験の結果を受けて次のステップを検討中 (あすか製薬)</li> </ul>
—	Ph1終了 バイエル社 (ドイツ)	<b>KRP-S124</b> ※ <b>(BAY2925976)</b>	閉塞性睡眠時 無呼吸等	バイエル社	ADRA2C拮抗作用を有し、中枢性に上気道虚脱を軽減し、閉塞性睡眠時無呼吸に見られる一時的な無呼吸・低呼吸を改善することが期待される	<ul style="list-style-type: none"> <li>BAY2925976及びそのバックアップ化合物について、全世界を対象とした独占的製造、開発、販売権に関するライセンス契約を締結 (24年12月)</li> </ul>

## 導出品の状況

開発段階	製品名/ 開発コード	導出先	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
Ph3 プリオセラ社	<b>KRP-203</b>	プリオセラ社 (アイルランド)	—	自社	S1P受容体アゴニスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の知的財産及び原薬等を譲渡 (20年9月)</li> </ul>

# その他：（2025年2月5日現在）

## DTxの状況

※前回（2024年11月7日）からの更新

契約先	開発コード	適応症	備考
サスメド(株)	KRP-DT123	耳鳴	耳鼻科領域における治療用アプリの共同研究開発及び販売に関する契約を締結（22年11月）  特定臨床研究開始（23年9月）

## オプション契約

開発段階		開発コード	予定適応症／ 対象疾患	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
—	Ph1実施中 ビオドール社 (フランス)	<b>BDT272</b> ※	慢性疼痛等	ビオドール社	神経障害性疼痛などの慢性疼痛の発症と持続に深く関与するFLT3（受容体型チロシンキナーゼファミリー）を阻害することで、効果的な鎮痛作用を発揮することが期待される	・日本及びアジア地域（中国を除く）における開発・販売権のライセンスに係るオプション契約を締結（25年1月）